

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 30 日現在

機関番号：84301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03172

研究課題名(和文)幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎家コレクション

研究課題名(英文)A Comprehensive Survey of Cultural Properties Kept in a Merchant Household, Active between the Late Edo and Early Showa Periods: the Hiromi Sotaro Collection of Kaizuka, Osaka

研究代表者

永島 明子(Nagashima, Meiko)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部教育室・室長

研究者番号：90321554

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：廣海家は、幕末から近代にかけて、大阪の貝塚で、廻船問屋、米穀肥料問屋、仲買、株式投資、銀行経営などで活躍した商家である。その広大な敷地には4棟の土蔵が並ぶ。この土蔵が伝えた書画・工芸・考古・歴史資料を京都国立博物館の研究員が調査し、1045件の文化財の寄贈を実現した。これを記念した展覧会や講座を開催し、関西の旧商家の生活文化を広く一般社会に紹介した。展覧会図録では、廣海家の商業活動やコレクションの概要について述べ、117件の作品の図版と解説、家系図、全寄贈品の一覧、調査報告を収録した。

研究成果の概要(英文)：The Hiromi family of Kaizuka, in Osaka, was a well-established merchant household dating back to the Edo period. The family conducted diverse businesses including shipping brokerage for the rice trade, fertilizer, stock investment, and bank management. Their walled property includes four earthen storehouses, which kept vast trove of artworks. The Kyoto National Museum curators have studied them, and supported the donation of over a thousand items from the family to the museum. A commemorative exhibition and a series of lectures were held to introduce to the general public the rich lifestyle enjoyed by the old wealthy merchant class of the Kansai region. The exhibition catalogue discusses the commercial activities held by the Hiromi family and the luxurious life style evidenced by the surviving treasures. It also features images and entries for 117 selected items, a family tree, the full list of 1045 donated items, and a report on how the survey was carried out.

研究分野：漆工史

キーワード：美術史 工芸 土蔵 幕末 近代 商家 文化財 服飾史

1. 研究開始当初の背景

(1) 大阪府貝塚市の廣海惣太郎家は、天保六年（1835）に米穀や肥料の問屋として起業し、幕末には大型和船を所有する廻船問屋として活躍した後、明治期には仲買、株式投資、銀行経営などに転じ、その資本によって地域の近代産業の発展に寄与した商家である。

(2) その経済活動については、同家に伝わる約8万点の文書をもとに、科研費補助対象であった石井寛治氏や中西聡氏らの研究「商人の活動からみた全国市場と領域市場 - 天保期から第二次大戦期」（研究課題番号07303009）が詳細に分析し、近世以来の地方商人資本が開国後に全国市場に展開しつつ地域の近代産業の発展を支えた典型例と位置づけられている。

(3) その廣海家の家屋敷が、現在も江戸時代と同じ場所にあり、母屋と現存する4棟の土蔵（うち1棟は2棟分が連結）が、国の登録有形文化財に指定されている。

(4) 第二次世界大戦後の廣海家は、戦前のような商業活動を行わず、当主も大学に勤務する研究者となったが、同家に伝わった江戸時代以来の家財道具の一切は、ほとんど処分されることなく大切に保管されてきた。現代の視点では美術品に分類されるような品が、歴代当主の生活を彩った道具として、着物や布団、傘や下駄、火鉢や手炙りなどととも土蔵に納められている。

(5) 家業について詳細に把握されている旧家に、日本の生活様式が大きく変化した時期の美術品が、使用されていた背景を物語るほかの生活用品とともに伝来し、そのすべてが研究者に公開されることは稀有である。なおかつ所蔵者は、京都国立博物館の研究員が公的機関の活動に役立つと認める品について、当館をはじめとする研究機関へ寄贈することを望んでいた。

(6) これを受け、同館は平成24年度に土蔵内の文化財調査をはじめたが、あまりの物量のため、本研究開始時にはその全貌を掴むに至っていなかった。

(7) 所蔵者は癌を患う高齢者であったため、現行の税制下では、世代交代による所蔵品の散逸が懸念された。そのため、調査の効率をあげ、完了を早く必要があった。所蔵者の存命中に専門集団による総合調査を完了し、幕末近代の商家の生活文化の記録を後世に伝えるべく、当助成を申請した。

2. 研究の目的

(1) 現代日本に伝わる古美術品の多くは、元の所蔵者がこれを手放したことをある種の恥として捉える傾向があるために来歴を抹消して売買され、博物館等施設に収蔵される頃には、どの社会層のどのような暮らしで用いられていたかが不明となっている場合が多い。それに対し、廣海家に伝わる美術工芸品は、タイムカプセルに収まるかのように当家で保管されてきたため、幕末から近代にかけての近畿圏の商家が入手し得た美術品の内容と、それらが使用された生活背景を、同時に知ることのできるまたとない研究対象である。

(2) 土蔵に長年仕舞われていた品々は、それらを調査できるように準備するだけでも手間を要する。本研究開始以前の調査では、学生が交代で手伝いに来ていたが、研究費がないために満足な交通費さえ支払えず、彼らの学習意欲とボランティア精神に頼るほかなく、定期的・効率的な調査を計画することが困難であった。本研究は、人的、物質的な調査体制を整えて、この状況を打破し、3年間で土蔵の調査と寄贈手続きの完結を目指すものであった。

(3) 26年度までの調査から、歴代の廣海家当主が、同時代の画家や工芸家のパトロンとしての役割を担っていたようすが窺われ、特に四代惣太郎は、明治時代後半から大正期の茶道会の活動に呼応し、表千家を支える地方数寄者のひとりとして大量の茶道具を蓄積したことがわかってきた。また、当時の実業家の常として、ほかの大商人や華族と姻戚関係を結んでおり、公家の石野家、旧水戸藩主徳川家、豪商の伊藤忠兵衛家や日本紡績の創業者のひとりとして知られる本咲家などと親戚づきあいがあり、贈答品や形見分けなどで品物が行き来した形跡も見受けられた。本研究の調査においても美術品を巡る人的ネットワークがより具体的に解き明かされることが期待された。

(4) 調査対象のうち、当館へ寄贈される品は、展示室に並べられるよう清掃し、寄贈手続きのため内外の評価会に陳列し、収蔵品のデータベースに登録し、図録用の文化財写真をデジタル撮影して専用のサーバに蓄積するなど、資料として整備する。館内の通常予算では整備費を賄い切れない物量であるため、本研究費を充てることで迅速にこの作業を進める計画を立てた。また、調査作品が博物館の収蔵品として整備された暁には、寄贈顕彰を兼ねた展覧会を企画し、本研究の成果を広く一般市民に公開することを目指した。

3. 研究の方法

(1) 調査と寄贈の大まかな手順は以下のとおりであった。土蔵内の文化財をひとつひとつ外



箱ごと搬出し、埃を払い、黴を拭い、包み布や紙の保存を検討し、内容物を確認して清掃し、調書を取り、採寸し、撮影し、元の棚に戻すという基礎作業を繰り返す。調書の内容をリスト化し、画像を保存整理すると同時に、各方面の意見を参考にしながら作品を評価し、寄贈先を検討する。撮影した画像をもとに所蔵者の希望を確認する。当館への寄贈分は、美術品輸送業者を手配して安全に梱包し、美術専用車両で博物館の燻蒸庫に直接搬入して、黴や害虫を駆除する。燻蒸庫から搬出した作品は、外箱に掃除機をかけ、乾拭きと固絞り雑巾による水拭きを行い、包み布は洗濯とアイロンを施し、作品も対象によっては掃除機、乾拭き、アルコール消毒などの処置を行って、博物館等施設で陳列できる文化財として整備する。各分野のこの作業を総合し、コレクション全体の歴史的価値付けを行う。最後に寄贈を顕彰し、成果を社会一般に還元するために展覧会を開催する。

(2) 廣海家の土蔵には、陶磁器と漆器、木製品、竹製品、金工品、染織品、絵画、書跡、彫刻、考古遺物が大量に納められていた。これら各分野を担当する連携協力者が貝塚へ出向き、江戸時代の母屋の収納スペースや土蔵の中を探索し、調査対象を探し出した。調査対象は、安全を確保しながら外箱ごと母屋の座敷に運び、そこで調査を行った。調査後は付箋をつけて元の場所に外箱ごと戻した。

(3) 土蔵によっては湿気が強く、ところによっては湿気を吸った埃を中心に黴が発生しており、この黴などを餌とする害虫も生息していた。作業者の健康を守りつつ、汚れた外箱の中身を汚さず安全に取り出すための清掃などを工夫をし、調査を進めた。漆碗などは、数十人前が数箱に分かれて収納されており、調査の下準備にすでに相当な作業が必要となった。分野によっては調査対象は数千点を越えることが予想された。3年間で調査を終えるために、こうした下準備において人手を必要とし、その人件費と旅費の確保が本研究の成就に関わる最大の要点となった。



(4) 各土蔵は狭く急な階段を備えた二階建てとなっており、脚立に登ってはじめて手の届く棚に調査対象が

並んでいる場合や、二階の床板を外してはじめて一階におろすことのできる大型作品が納まっていることがあった。その場合は、美術輸送を専門とする業者の手を借りることが最も安全かつ効率が高いため、作品の出し入れをまとめて行う日を確認し、そうした専門の作業員を動員した。

(5) 調書の内容はリスト化し、通し番号に合わせてデジタル画像を整理した。数百点整理できたところで、それぞれの品について所蔵者に寄贈の意志を確認し、博物館への搬入が決まった品を美術品輸送会社の手で梱包し、廣海家より搬出した。

(6) 博物館へ搬入する作品は、簡易に清掃されたとはいえ、黴や害虫の繁殖の懸念がなお残るため、収納スペースには入れず、酸化エチレンガスで燻蒸するための専門施設へ搬入した。燻蒸を終え、一週間程度ガス抜きをした作品は、別の作業室へ搬入した。

(7) 燻蒸後の本格清掃作業は調査補助アルバイトと必要に応じて美術品輸送会社の作業員とともに行った。燻蒸を終えた作品の外箱は、文化財専用のHEPAフィルタを備えた掃除機で清掃し、ふきんで空拭きを行ったのち、固絞りふきんで木目に沿ってしっかりと汚れをぬぐった。虫損のあった箱については、竹串などを用いて損傷部分を処理し、蓋の棧が外れたものは竹串などを用いて修理した。破棄せずに作品とともに搬入した附属の布類は、洗える物は通し番号を書いた布をホットキスで留めて、洗濯乾燥機を用いて洗濯し、アイロンをかけ、作品に添え直した。洗えない物は、掃除機をかけて清掃した。作品は、食器として用いる品は中性洗剤で洗い、ふきんで拭いた後、十分に乾燥させてから、布または薄葉紙に包み、外箱に戻した。水洗いのできない状態の品は、作品の保全に充分注意しながら、アルコールを浸した脱脂綿や綿棒を用いて清掃したり、掃除機を用いたりして、清掃した。

(8) 博物館に収納される文化財として整備された品を、館内鑑査会や外部評価会に諮るために、展示室に付属品とともに陳列した。会議の後の撤収と収蔵庫への搬入にも、美術専用作業員を動員した。

(9) 博物館の収蔵品となった作品は、図録などに用いる文化財写真をデジタル撮影した。この作業についても物量をこなすべく美術品輸送業者に作品の出し入れを委託した。

(10) 調査対象のうち、京都国立博物館では活用が見込まれないが、他の研究施設では収集対象となっているような品（近現代作品など）については、所蔵者の了解のもと当該施設へ作品を紹介した。

(11) これらの作品調査が終了したところで、当館で各分野を担当する連携協力者が代表的な作品を選択した。これをもとに研究代表者がコレクション全体についての評価を総括した。その内容を展覧会に組み上げ、本研究の成果として一般社会に還元した。

4. 研究成果

(1) 調査の結果、1045件の文化財が京都国立博物館へ寄贈された。これを記念した展覧会「豪商の蔵 美しい暮らしの遺産」や関連講座を開催し、関西の旧商家の生活文化を広く一般社会に紹介することができた。展覧会図録では、廣海家の商業活動やコレクションの概要について述べ、「寺内町の廻船問屋」「抹茶と煎茶」「祝宴」「趣味と支援」「婚礼 名家のネットワーク」という5つのテーマを設け、117件の作品の図版と解説、姻戚関係を確認できる家系図、全寄贈品リストと、調査報告を収録した。（「5. 主な発表論文等」参照）



(2) 図録に収録した調査報告では調査過程を簡易な言葉で紹介した。土蔵の解体が全国で進むなか、この報告は、所蔵者や同様の案件に遭遇する文化財関係者に対し、土蔵の内容物の調査と保存方法に関するひとつのモデルケースを提示できたと思われる。

(3) 当館の収蔵対象ではない文化財も、他機関への寄贈を仲介した結果、そちらの展覧会で活用された（堺市博物館の堺緞通展等）。

(4) 本研究は、膨大な数の文化財を限られた時間で調査し、貴重な作品の保存と展覧会による社会への紹介を目指した。調査6年目にして実現した展覧会の閉幕を見届けるように、所蔵者が亡くなった。ご生前にかりうじて研究成果を報告できたのも、本研究費の投入があつてこそといえるだろう。



5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

永島 明子「廣海家の蔵が伝えたもの」京都国立博物館編『貝塚廣海家コレクション受贈記念特別企画 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産』京都国立博物館、査読無、2018年2月3日：pp.11-16

永島 明子「土蔵から展示室へ」京都国立博物館編『貝塚廣海家コレクション受贈記念特別企画 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産』京都国立博物館、査読無、2018年2月3日：pp.138-139

中西 聡「米穀肥料商廣海惣太郎家の商業経営」京都国立博物館編『貝塚廣海家コレクション受贈記念特別企画 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産』京都国立博物館、査読無、2018年2月3日：pp.6-10

〔学会発表〕(計4件)

山川 暁「御所人形の展開」京都国立博物館土曜講座、2018年3月3日

降矢 哲男「商家に伝わったやきもの」京都国立博物館土曜講座、2018年2月17日

永島 明子「廣海家展ができるまで」清風会鑑賞会、2018年2月13日

永島 明子「土蔵は大きなタイムカプセル！ 旧廻船問屋、貝塚廣海家からの大型寄贈を記念して」京都国立博物館土曜講座、2018年2月10日

永島 明子「廻船問屋の土蔵が伝える木・竹・漆の文化財」京都国立博物館土曜講座、2016年7月23日

〔図書〕(計1件)

京都国立博物館編『貝塚廣海家コレクション受贈記念特別企画 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産』京都国立博物館、2018年2月3日、160

〔その他〕ホームページ等

Nagashima, Meiko "Hidden Treasures from a Merchant's Storehouse: the Hiromi Collection, a Legacy of Elegant Living". *Kyoto National Museum Newsletter*, Vol.136, January to March 2018.

永島 明子「富士蒔絵盆 1 枚 中山胡民作」
(美術館だより 307 京都国立博物館³³)『なにわ』2月号、大阪府警、2018年1月

永島 明子「特別企画 貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産」『京都国立博物館だより』197号、2018年1月1日発行

永島 明子「特別企画 貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産」展覧会チラシ、2018年1月発行(プレチラシ原稿を採録)

Kyoto National Museum ed. "Tiered Food Box with Sailboats; Feature Exhibition, Hidden Treasures from a Merchant's Storehouse: the Hiromi Collection, a Legacy of Elegant Living", *Kyoto National Museum Newsletter* Vol.135, October to December 2017.

http://www.kyohaku.go.jp/jp/event/sat/30_1-3.html (平成30年1-3月の土曜講座)

http://www.kyohaku.go.jp/jp/project/hiromike_2018.html (特別企画 貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産)

永島 明子「特別企画 貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産」展覧会チラシ、2017年11月発行

京都国立博物館編「これからの展覧会：特別企画 貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵 美しい暮らしの遺産」：「帆掛蒔絵螺鈿重箱」『京都国立博物館だより』196号、2017年10月1日発行

永島 明子「眠れる蔵の美術」『清風会会報』186号、清風会、2017年4月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永島 明子 (NAGASHIMA MEIKO)
京都国立博物館・学芸部教育室・室長
研究者番号：90321554

(2) 研究分担者 (0)

(3) 連携研究者 (12)

浅見 龍介 (ASAMI RYUSUKE)
東京国立博物館・学芸企画部・課長
研究者番号：30270416
池田 素子 (IKEDA MOTOKO)
京都国立博物館・学芸部列品管理室・アソシエートフェロー (2016年度まで)
研究者番号：70573179
尾野 善裕 (ONO YOSHIHIRO)
奈良文化財研究所 都城発掘調査部・室長
研究者番号：40280531
末兼 俊彦 (SUEKANE TOSHIHIKO)
東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員

研究者番号：30270416
土井 久美子 (DOI KUMIKO)
大阪市立美術館・学芸部・学芸員 (2016年度まで)

研究者番号：20726989
中尾 優衣 (NAKAO YUI)
東京国立近代美術館・工芸課・主任研究員

研究者番号：00443466
羽田 聡 (HADA SATOSHI)
京都国立博物館・学芸部美術室・室長

研究者番号：30342968
福士 雄也 (FUKUSHI YUYA)
京都国立博物館・学芸部美術室・研究員

研究者番号：50747334
降矢 哲男 (FURIYA TETSUO)
京都国立博物館・学芸部工芸室・研究員

水谷 亜希 (MIZUTANI AKI)
京都国立博物館・学芸部教育室・研究員
研究者番号：20565296

宮川 禎一 (MIYAKAWA TEIICHI)
京都国立博物館・学芸部列品管理室兼考古室・室長兼上席研究員

研究者番号：30280530
山川 暁 (YAMAKAWA AKI)
京都国立博物館・学芸部工芸室・室長
研究者番号：70250016

(4) 研究協力者

浅湫 毅 (ASANUMA TAKESHI)
京都国立博物館・学芸部連携協力室・室長
研究者番号：10249914

伊藤 信二 (ITO SHINJI)
京都国立博物館・学芸部企画室・室長
研究者番号：00443622

上畑 治司 (UEHATA HARUJI)
貝塚市教育委員会・教育部社会教育課・文化財担当

呉 孟晋 (KURE MOTUYUKI)
京都国立博物館・学芸部列品管理室・主任研究員

研究者番号：50567922
小堀信幸 (KOBORI NOBUYUKI)
船の科学館・学芸部・調査役(学芸員)

佐藤明俊 (SATO AKITOSHI)
奈良県立図書館情報館・図書・公文書グループ・常勤嘱託

曾我 友良 (SOGA TOMOYOSHI)
貝塚市教育委員会・教育部社会教育課・文化財担当

中西 聡 (NAKANISHI SATORU)
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：20251457

降幡 順子 (FURIHATA JUNKO)
京都国立博物館・学芸部保存科学室・室長
研究者番号：60372182